

沙羅の樹文庫だより

NO. 209
(24年4月号)



さくらには散ってしまったけれど……

うたうやうにゆっくりと 立原 道造

日なたには いつものやうに
 しづかな影が こまかい模様を編んでゐた
 淡く しかし はつきりと
 花びらと 枝と 梢と — 何もかも……
 すべては そして かなしげに
 うつら うつらしてゐた
 私は待ちうけてゐた 一心に
 私は見つめてゐた 山の向うの
 また 山の向うの空をみたしてゐる
 きらきらする青を
 ながされて行く浮雲を 煙を……
 古い小川は またうたつてゐた
 小鳥も たのしくさへづつてゐた
 きく人もゐないのに
 風と風とはささやきかはしてゐた
 かすかな言葉を
 ああ 不思議な四月よ！
 私は 心もはりさけるほど 待ちうけてゐた
 私の日々を優しくするひとを
 私は 見つめてゐた ……風と 影とを……

★7月の閉館まで予約制で開館★

4月20日(土)、21日(日)
5月18日(土)、19日(日)

★最終貸出 6月15日(土)、16日(日)★

★最終返却・開館日：7月は第2週の土日

7月13日(土)、14日(日)★
(子どもは15日(月)午前OK)

！ぜひ、文庫の二つのおはなし会に！

♥若葉のころのおはなし会♥

ゲスト(町田語り手の会)を迎えて

5月18日(土)午後2:00～大きい人に

19日(日)午前10:30～子どもたちに

★閉館記念おはなし会★

7月14日(日)午後：大きい人たちに

15日(月・海の日)午前：小さい人たちに

文庫・開館時間：土曜日 13:00～17:00
日曜日 10:00～15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会

文庫のある日曜日 10:30～11:00

沙羅の樹文庫

☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

♥沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫♥

☎0557-54-1910

開室日：水曜日 13:00～15:00

日曜日 10:00～15:00



文庫あれこれ◆天の神様の悪戯で、桜並木のある我が家の通りも満開と思ったのは6日?そして7日には、もう青葉若葉が垣間見え。でも小・中の入学式には、何とか間に合いそう♥◆ということで、表紙は日曜、連れ合いがジョギングしながら眺めた大桜(80歳になった途端、車で皇居までしんどいと、自宅から歩いて200メートルの砧公園に走る場所を変更)を、昼に3女が撮った写真です。◆ガザ、ウクライナは世界の良心がどうにもできないのでしょうか。と無力を嘆いていたら、息子の住む台湾で大きな地震&台湾の速い対応が能登と比べられ、日本は政治家はくだらぬことで時間を費やし、政治家におんぶに抱っここの国民私たちにも問題ありと。◆はたまた川勝さんの失言と辞任。◆でもでも、4月はスタートの季節。元気な新人も、老化を辿る私たちも新たな生きるよすがを見つけて頑張りましたよ!!◆輪島の朝市を描いた絵本『あさいち』に元気をもらえます。能登頑張れ、台湾頑張れ、生きてるみんな頑張れ◆4月の文庫が佳き日でありますよう◆6月まで新刊入れます。(西村)



訃報：長きにわたり、文庫に沢山の子どもの本を送り続けて下さった広瀬恒子さんが、桜の開花を待たず、亡くなりました。感謝と、ご冥福を祈ります。

徒然なるままに …… さ・ら

★本屋大賞が発表され、宮島未奈著『成瀬は天下を取りに行く』、翻訳は『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』が受賞しました。両方とも文庫にあります。★上の桜は、京都伏見・濠川の十石舟遊覧船から(地元 N.I.さん)★左の写真は、佐目のミツマタ、土山のユキワリイチゲ(大津の K.I.さんから)★他にも地方のたくさんの方から花便りいただきました♥

『レディ・ジョーカー 上巻、中巻、下巻』高村薫著（新潮文庫 2011 年刊）

1997 年に毎日新聞社から単行本として出版されて 27 年。急に、もう一度読みたくなくて文庫版を手にとると大幅に加筆されている。27 年前に読んだので、記憶も薄れ、グリコ森永事件を題材に取ったことと、面白かったことくらいしか覚えていないのだが、再読してみても、その重層的な内容、深みに圧倒されて夜を徹して読み耽った。長い小説だが、犯罪小説であり、経済小説であり、社会小説でもある。ジャンルをはみ出した大傑作。

本書では犯人グループ（競馬仲間である五人の男）が「レディ・ジョーカー」と名乗りビール会社の社長を誘拐する。グリコ森永事件とほぼ同じ手口で企業を恐喝して、現金 20 億円をまんまと奪い取る。警察は犯人をわかっていたが捕らえきれなかった。なぜなら犯人の中に身内の刑事がいたから。

本書の面白さは、圧倒的な筆力にある。犯人グループの仕事師たち一人ひとりの背負っている生活背景や心の内側、警察の内部組織の複雑な人間関係、ビール会社の抱える黒い歴史と社内の派閥対立、総会屋や政治家との切っても切れない会社の薄汚い関係、この事件で特ダネを取りたい大新聞社の組織としての暗闘、そして事件を追う刑事たちなど、何



十人もの主役級の人々を細部にわたるまで丁寧に書き込んである。もともと高村さんは、取材は、いっさい手を抜かない作家として有名だが、ここまで調べて書くのか、と思った。

犯人グループの手口は見事で警察には捕まらない方法で金をだまし取る。そうか、こういう方法だったのか、と納得させられる。が、彼らは決して喜んではない。苦いものを抱えたまま、奪った現金にも迂闊に手を付けられない悶々とした日々を過ごす。

本書は『マークスの山』『照柿』『我が少女 A』などに登場する合田雄一郎刑事シリーズものの 1 冊で、合田刑事の姿を追いかけたい読者には読む喜びをこれでもか、というくらい味あわせてくれる。今の時代に読んでも古びていない。これほどの本はめったに出会えないと思う。

★グリコ森永事件とは「1984 年 3 月、江崎グリコ社長を拉致して身代金を要求した事件を皮切りに、江崎グリコに対して脅迫や放火を起こす。その後、丸大食品、森永製菓、ハウス食品、不二家、駿河屋など食品企業を次々と脅迫。現金の引き渡しにおいては次々と指定場所を変えたが、犯人は一度も現金の引き渡し場所に現れなかった。犯人と思しき人物が何度か目撃されたが逃げられてしまったため、結局正体は分からなかった。」

（ウイキペディアより引用）

♡久しぶりの亜子さんからでした♡

文庫にも、高村薫の著書は、以下、かなりあります。それなのに、何と、『レディ・ジョーカー』がなかったので入れませんでした。

単行本:

『マークスの山』(ID7605)、『血を這う虫』(ID5920)、
『照柿』(ID5930)、『四人組がいた。』(ID15743)、
『空海』(ID16405)、 『我が少女 A』(ID17991)
『太陽を曳く馬 上・下』(ID7124,25)、 『冷血 上・下』
(ID9896,7)、 『晴子情歌 上・下』(ID7468,9)、
『土の記 上・下』(ID16925,6)

文庫本

『リヴィエラを撃て 上・下』(ID5957,8)
『神の火 上・下』(ID6225,6)

新書版

『作家的覚書』(ID17109)

等等

私のバレエ留学記

水野 空奈

沙羅の樹文庫と同一年で、12月に17歳になった空奈です。春から高校3年生です。

私は今、3ヶ月のバレエ留学のためアメリカに滞在しています。ニュージャージー州にあるバレエ団の研修プログラムに参加しており4月にある公演に出演する予定です。

全11週間のプログラムは、トレーニング期間が7週とリハーサル期間4週で分れています。トレーニング期間では10時からクラスが始まり、ポワントや回転・ジャンプなどのレッスンを15時まで受けました。リハーサル期間は10時から1時間半のクラスの後、それぞれのリハに移ります。運動量がとても多くて、最初の頃は毎日疲れ果てていましたが、今は体力がついたのか元気な状態で15時を迎えます。

アメリカといえば英語ですよ、この3ヶ月で英語力をメキメキ伸ばそうと期待十分でやってきた私ですが、なんと、寮のような家に住む人全員が日本人だったのです。トレーニ



寮からの眺め

ング期間はバレエ団員の方達と殆ど会わないので話す機会もないですし、スーパーでの買い物もセルフレジのため、レッスンの先生のお話や街中の人々の会話を聞く事しか英語に触れる環境がありませんでした。初日はそれにとっても落胆してしまいましたが、自分で勉強しようと思い直して、両親に日本から英語試験の教材を郵送してもらい、持参した単語帳と合わせて（海外のYouTubeを見るのも楽しくておすすめです）学習を始めました。帰宅後や朝の隙間時間などで毎日コツコツと続けています。今週からリハーサルが始まり団員の方々と話す機会も増えたので、積極的に話しかけて英語を話す事聞く事に慣れていきたいと思います。

こちらでは家事は全て自己責任です。買い物に行かなければ食材は無いですし、洗濯をしなければ着る服は無いです。お昼を食べる時間がなくておにぎり一つ摘むくらいなので、朝晩の食事ですぐに充電しています。

いくらバレエ留学といってもバレエのことばかり考えていたら良い訳ではないので、寮ではバレエから離れて、読書したり勉強したりニュースやSNSを見たりして過ごしています。身の回りのことを全て自分でする生活

は初めてで、生きていくためにやらなきゃいけない事ってこんなにあるんだとびっくりしましたが、無事生活できています。

こんな感じで、私はアメリカ留学生活を楽しく送っています。こちらの人はフレンドリーで、バスでたまたま隣になった人と話したり運転手さんと親しく話したりする反面、愛想がない人もいます。ここでは、みんな違ってみんないいを強く感じます。この3ヶ月で感じた事を今後活かして、楽しく毎日を過ごしていきたいです。

★寄稿してくれた空奈の短期留学したニュージャージー州アトランティックシティは、カジノで有名のようです。また街も賑やかなところもあるようですが、バレエスクールと寮とのバス往復で、街を歩くことはなかったようです。アメリカからスマホで送ってくれました。

★6人の孫は、みんな文庫の本を読んで大きくなりましたが、空奈は、まさに文庫と共に生まれ育ったと言えます。5歳から「海の日のおはなし会」で語り、演奏し、読書しと。バレエも音楽（ヴァイオリン）も、そして勉強も頑張っているようですね？ 西村



＜留学最後の2日間、バレエ団の公演に参加しました＞

絵本

24.4月に入る子どもの本

- 『あさいち』(大石可久也 輪島朝市の人びと 福音館書店 2024 復刊) ID14055
 『木にとまりたかった木のはなし』(黒柳徹子 武井武雄 絵 河出書房新社 2023) ID14048
 『みんな、空をとべる』(ジャクリン・ウッドソン 作 ラファエル・ロペス 絵 都甲幸治 訳 汐文社 2023) ID14047
 『ふるさととはウクライナ』(望月芳子 文 ミヤザキケンスケ 絵 ナイデル 2024) 14049
 寄贈いただきました
 ウクライナ生まれのカテリーナさんの話を絵本に。皆さん、バンドウーラという楽器知っていますか。

読みもの

- 『赤いめんどり』(アリソン・アトリー 作 青木由紀子 訳 山内富士江 絵 福音館書店 2023) ID14050
 『じゅげむの夏』(最上一平 作 マメイクダ 絵 佼成出版社 2023) ID14051

昔話

- 『しかばねの物語—チベットのむかしばなし』(星泉 編 訳 蔵西 絵 のら書店 2023) ID14052

ノンフィクション

- 『水平線のかなたに—真珠湾とヒロシマ』(ロイス・ローリー 著 ケナード・パーク 画 田中奈津子 訳 講談社 2023) ID14053

詩

- 『一年一組せんせいあのね』(鹿島和夫 選 ヨシタケシンスケ 絵 理論社 2023) 14054



フィクション

24.4月に入る大人の本

- 『川のある街』(江國香織 著 朝日新聞出版 2024) ID19253
 『風に立つ』(柚木裕子 著 中央公論新社 2024) ID19254
 『のち更に咲く』(澤田瞳子 著 新潮社 2024) ID19255 *リクエスト
 『板上に咲く』(原田マハ 著 幻冬舎 2024) ID19272
 『うらはぐさ風土記』(中島京子 著 集英社 2024) ID19277
 『タスマニア』(パオロ・ジョルダノ 著 飯田亮介 訳 早川書房 2024) ID19256

エッセイ

- 『ホントのコイズミさん』(小泉今日子 編 著 303Books) ID19257 *リクエスト

その他

- 『魯山人の料理王国』(北王路魯山人 著 文化出版局) ID19265
 『キリムからの手紙—願いを伝える遊牧民の布』(桐山エツコ さく・え かもがわ出版 2023) ID19271
 『ずっと、ずっと帰りを待っていました—「沖縄戦」指揮官として遺族の往復書簡』(浜田哲二/律子 著 新潮社 2024) ID19259
 『菜の花の沖縄日記』(坂本菜の花 著 ヘウレカ 2019) ID19258
 *寄贈していただきました。著者の菜の花さんは、今、珠洲市の自宅で、周囲の皆さんと助け合って頑張っています。

- 『カテリーナの伝えたい5つのこと』(カテリーナ 著 ナイデル 2023) ID19260

*寄贈していただきました。カテリーナさんの絵本と合わせてお読みください♥

- 『世界への信頼と希望、そして愛—アーレント『活動的生』から考える』(林大地 著 みすず書房 2023) ID19261
 『新版 散歩で見かける草花・雑草図鑑』(鈴木庸夫 写真 高橋冬 解説 三省堂書店 2024) ID19263
 『改訂版 散歩で見かける街路樹 公園樹 庭木図鑑』(葛西愛 著 創英社 2024) ID19264

新書

- 『シンデレラはどこへ行ったのか—少女小説と『ジェイン・エア』』(廣野由美子 著 岩波書店 2023) ID19262

文庫

- 『倭寇一わが天地は外海にあり』(高橋直樹 著 潮出版社 2024) ID19266
 『一千一秒物語』(稲垣足穂 著 新潮社 2021) ID19267
 『レディ・ジョーカー 上・中・下』(高村薫 著 新潮社 2022) ID19268~ID19270
 『オープンハイマー 上~下』(カイ・バード&マーティン・J・シャーウィン 著 河邊俊彦 訳 早川書房 2024) ID19291~19293



半八重枝垂れ紅彼岸
 (信州・飯田市麻績の里 M.S.さんから)